

実践事例（3）

第5・6学年 国語科 ～TTで支援する小グループでの話し合い活動～

1 はじめに

本校は、全校児童35名の小規模校である。児童は、明るく素直で、何事に対しても真摯な態度で取り組むことができる。本学級の5年生6名、6年生2名の計8名も、様々なことに一生懸命取り組むことができている。学習面では、自分の考えをもち、伝えたいことを表現しようとする態度は育ってきているが、内容をまとめ、相手に伝わるように表現するまでには至っていない。そこで、互いの意見をよく聞き合い、伝え合うことができるようになることを目指し、話し合い活動や発表の場を設けた集会を行ったり、授業の中に小グループでの話し合い活動を取り入れたりしている。

今回は、国語科の説明文の教材において、TTの形態を取り入れることにより、ガイド学習の充実を図ることとした。T1・T2が、それぞれの学年の話し合い活動を支援することで、より充実した学習が展開できると考える。

2 実践例

(1) 単元名

第5学年	第6学年
自分の考えを明確にしながら読もう 「ゆるやかにつながるインターネット」	言葉について考えよう 「言葉は動く」

(2) 単元の目標

第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の考えに対する自分の考えを明確にしながら読もうとする。 ○ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 ○ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉の変化に対する自分の考えを明確にしながら読もうとする。 ○ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 ○ 語句の変化や由来について、関心をもつ。

(3) 単元の評価規準

第5学年	第6学年
関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
筆者の考えに対する自分の考えを明確にしながら読もうとしている。	言葉の変化に対する自分の考えを明確にしながら読もうとしている。
読む能力	読む能力
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えをもつために、必要な内容を押さえて要旨を捉えている。 ○ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 友達の感じ方、考え方との共通点・相違点を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えをもつために、筆者の挙げている事例や根拠を的確に捉えている。 ○ 文書を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 自分の経験や知識と照らし合わせている。
言語についての知識・理解・技能	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ○ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。 ○ 語句の変化や由来について、関心をもっている。

(4) 指導観

第5学年	第6学年
<p>○ 本学年は、男子3名、女子3名、計6名である。文章を読むことにはそれほど抵抗はないが、内容を正確に読み取ることには苦手意識を感じている児童が多い。県学力診断調査や単元テスト等の結果からは、物語文に比べ、説明文の内容理解が苦手であるということが分かった。</p> <p>1学期に学習した説明文「見立てる」、「生き物は円柱形」では、文章の構成に着目して要旨をとらえることに課題が残った。</p> <p>○ 本教材は、筆者が事例として挙げている事実を読み取った上で、自分の知識や経験と関係付け、身近な例に置き換えながら読むことができる。また、人とのつながりを「強い」と「ゆるやか」に分けて考える便利さの反面、危うさがあることも述べるなど、視点によって物事の捉え方が変わることに気付かせてくれる。言葉に限らず、物事を多面的に捉えることができる力を身に付けるのに適している。</p> <p>○ 本時の指導では、筆者の考えに対する自分の考えを明確にしていくために、文章中に出てきた例を身近な場面に置き換え、まとめさせる。また、意見交流を通して、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p>その際、読み取りの浅い児童やまとめることが苦手な児童への手立てとして、ガイド学習により全員でまとめた文章を推敲する学習を取り入れる。</p> <p>また、話合いの様子をTTで支援し、本時の評価につなげることとする。</p>	<p>○ 本学年の女子2名は、比較的習熟度が高く、文章を読むことも得意としている。</p> <p>1学期に学習した説明文「生き物はつながりの中に」では、文章の構成を理解し、2学期に学習した「『鳥獣戯画』を読む」では、筆者の表現の特徴を捉えることができた。</p> <p>○ 本教材は、時代または世代による言葉の違いや変化に関する例を挙げながら、使われなくなっていく言葉に対して、筆者が願うことを述べたものである。日頃何気なく使っている言葉をテーマとしており、児童は関心をもちやすい内容である。また、5年時に学習した、「ゆるやかにつながるインターネット」と関連させ、文章中の例を身近な例に置き換えて読むことができる教材である。</p> <p>○ 本時の指導では、要点を的確にまとめ、小見出しを付ける。その際、キーワードやキーセンテンスを見付けながら考えることを知らせるが、最初のまとまりに関しては、一緒に行うことにする。そうすることにより、キーワードやキーセンテンスの押さえ方、小見出しの付け方のイメージをつかませる。また、各自が考えた小見出しをよりよいものにするために、紹介し合い、推敲する学習展開を組み込む。その活動をTTで支援しながら本時の評価につなげることとする。</p>
<p>○ TTによる授業について</p> <p>本単元においては、自分の考えを広げたり深めたりするために、話合い活動を取り入れた。その場面で、2人の教師がそれぞれの話合い活動の支援を行うようにした。児童だけでは、発表するだけで終わることもあるが、教師の支援が入ることにより、互いの考えの共通点や相違点に気付かせることができ、話合い活動の充実にもつながると思われる。</p>	

(5) 指導計画

第5学年 (全8時間)			第6学年 (全8時間)		
次	学 習 活 動	時数	次	学 習 活 動	時数
1	① 学習課題を設定し、学習計画を立てる。	1	1	① 学習課題を設定し、学習計画を立てる。	1
2	② インターネットにおける人とのつながりについて、筆者の考えをまとめる。	2 本時 (1/2)	2	② 本文を読んで、要旨を捉え、小見出しを付ける。	2 本時 (1/2)
	③ インターネットによる人とのつながりについて、身近な例に置き換えて、自分の考えをまとめる。	1		③ 例に挙げられている言葉について調べる。	1
	④ 考えたことを発表し合う。	1		④ 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。	1
3	⑤ 他のコミュニケーション手段について、自分の考えをまとめる。	2	3	⑤ 観点を決めて、言葉に対する自分の考えをまとめる。	2
	⑥ 考えを交流し合う。	1		⑥ 考えを交流し合う。	1

(6) 本時の指導

ア ねらい

第5学年	第6学年
インターネットにおける人とのつながりについて、筆者の考えをまとめることができる。	要旨を捉え、小見出しを付けることができる。

イ 準備物

第5学年	第6学年
ワークシート センテンスカード	ワークシート センテンスカード

エ 展開

第5学年		わたり	第6学年	
支援○ 評価◎	学習活動		学習活動	支援○ 評価◎
	1 本時のめあてを確認する。		1 本時のめあてを確認する。	
	インターネットにおける人とのつながりについてまとめよう。		本文の内容を捉え、小見出しを付けよう。	
○ 一斉読みと指名読みで音読させる。(T2)	2 第4段落までを読み、「強いつながり」と「ゆるやかなつながり」について考える。		2 要旨のまとめ方、小見出しの付け方を練習する。	○ 最初のまとまりの要旨の捉え方と小見出しの付け方を一緒に行うことにより、大事な言葉や文の押さえ方、小見出しの付け方を共通理解させたい。(T1)
○ ワークシートに書き込ませる。(T2)	① ワークシートにまとめる。		① キーワードを見付ける。 ② キーセンテンスを見付ける。 ③ 小見出しを付ける。	

○ 自分たちで確認し合う。(T1)	② 全員で確認する。		3 各まとまりの要旨を捉える。	
○ ワークシートに書き込んだキーワードについてふれ、まとめやすいように支援する。(T1)	③ 「強いつながり」と「ゆるやかなつながり」についてまとめる。		① 自力でまとめる。 ② 紹介し合う。	○ 筆者が伝えたかったことをまとめ、ワークシートに書かせる。(T2) ○ 「昔の人々の暮らし方や心のもち方を受け継ぎながら今の我々がある。」ということを押さえ、そうした言葉を大切にすることの意味を考えさせたい。(T2) ◎ 要旨をまとめることができたか。 【ワークシート】
◎ 「強いつながり」と「ゆるやかなつながり」についてまとめることができたか。 【ワークシート】	④ 発表する。		4 各まとまりについて小見出しを考える。 ① 自力で小見出しを考える。 ② 自分の作った小見出しを紹介し合い、評価し合う。	○ 練習したことを基にして、自力で小見出しを付け、ワークシートに書かせる。(T2) ○ キーワードやキーワードを紹介し合い、自分がどのような小見出しにしたかを紹介する。(T1)
○ 自分の書いた文章と比較し、意味の通りやすい文になるように全員で推敲する。(T2)	3 本時の学習を振り返る。		5 本時の学習を振り返る。	○ 要旨をまとめ、小見出しを付ける学習を通して学んだことを、ワークシートに書かせる。
○ 本時の感想を書かせることで、自分の身近な人間関係について、意識を向けさせたい。				

3 考察

(1) 授業前の打合せ（わたりについて・支援の方法について）

複式の授業をT Tの形態で行う時、それぞれの役割分担の確認が大切になってくる。共通理解を図るために、お互いに授業の展開をイメージしながら略案を通して打合せをするようにした。打合せの中では、どのタイミングでわたりを行い、どのような支援を行うか、また、どのくらいの時間の学習活動にするかを確認した。通常の複式の授業よりも事前準備に時間は掛かるが、児童は、授業中のどの活動にも支援者がいることで、安心して授業に臨むことができた。



(2) 児童が主体となって行う話し合い活動と支援の在り方

複式学級では、自力解決をする学習も大切であるが、自分たちで話し合いを進めていくような授業展開も大切である。話し合いを進行する児童を育てたり、交流する中で自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになるまでには時間が掛かるが、経験を積ませることによって、よりよい話し合いが行われるようになってきている。T 1が直接指導している時はT 2が、T 2が直接指導している時はT 1が話し合い活動を支援することで、話し合いがよりスムーズになってきているので、今後も継続していきたい。



4 おわりに

複式学級の授業をT Tで行うことにより、授業者が今まで以上に見通しをもって授業に臨むことができた。

また、間接指導の時でも、必ず一方の教師が児童を支援することができ、主体的に学ぶ児童の姿を見取ることができた。

しかし、ガイド学習を行う時は、児童が主体となった話し合い活動を行うことができるが、間接指導時には、十分な聞き合いや伝え合いになっていないことも多い。

国語科に限らず、算数科、社会科などでも積極的に話し合い活動を取り入れ、より言語活動を充実させ、学ぶ喜びを味わうことができる授業を組み立てていきたい。

